

東海鉄道OB会報

第11号

平成19年10月



高山本線 焼石～下呂間 秋陽 加藤鋼一(名古屋機関区支部)

目次

東海東京地方本部 平成十九年度総会開催 東海東京地方本部事務局	伏見良雄 : 2
東海鉄道OB会 名古屋地方本部表彰式・総会 名古屋地方本部事務局長 加藤寿美夫	: 2
第三回東海鉄道OB会 東海大阪地方本部総会を開催 東海大阪地方本部事務局 八木芳博	: 3
平成十九年度の本部及び 各地方本部の役員紹介	: 3
暮らしと年金	: 4
「千種名東支部総会」 鶴舞支部との合併を決議 千種名東支部事務局 伊藤典男	: 4
「元気で頑張る」ことを確かめ合つて 菊川支部事務局長 八木一嘉	: 4
名古屋資材支部総会 名古屋資材支部副支部長 米澤 董	: 5
蟹江支部総会開催 蟹江支部長 東 昇	: 5
第二回「菊作り」講習会の開催 東海大阪地方本部事務局 八木芳博	: 6
浜松東支部定期総会 浜松東支部長 松本 忠	: 6
原支部定期総会開催 原支部長 飯田宇作	: 6
津支部総会 津支部 事務局長 岡山嘉久	: 7
JR東海トピックス	: 8
グループインフォメーション	: 11
読者のひろば	: 13
駅探訪／石綿(アスベスト)補償制度の お知らせ／編集後記	: 16

東海東京地方本部

平成十九年度総会開催

東海東京地方本部 事務局 伏見良雄

平成十九年七月十三日、東海東京地方本部平成十九年度総会を東京駅前の東京八重洲ホールにおいて、会員約五十名の参加のもと開催しました。

総会ではまず、故人となった三名の会員のご冥福をお祈りし、全員で黙祷を行いました。

はじめに、川崎地方本部長から「この一年間、東海道新幹線の輸送量が好調で、JR東海グループ各社も順調であったこと。また、OB会が発足して六年近くになり、百四十九名でスタートした会員が、約百名増となり約二百五十名となったこと」など日頃の各支部の活動についての感謝の挨拶がありました。

続いて議事に入り、青柳事務局長より平成十八年度の事業報告、会計報告と平成十九年度の活動方針として会員拡大に向けては、関係会社毎のOB会との緩やかな提携を図り、OB会活動の発展を図ってゆくこと等について報告があり、引き続き役員改選が行われ、新しく地方本部長には建守猛氏、事務局長には久野義彦氏、会計監査員には萩昌義氏を選出し、各議案とも出席者全員によって承認されました。

総会后、JR東海新幹線鉄道事業本部の阿久津本部長はじめ各部長をご来賓としてお招きして、懇親会を盛大に開催しました。

懇親会では、新任の建守猛地方本部長から「十九年度の基本方針も決まり、今後のOB会は情報交換と懇親であり、多くの皆さんに出席頂く結果、OB会の会合も増えるという形にしたい。」との挨拶がありま

東海東京地方本部 事務局 伏見良雄



した。

続いて、来賓の阿久津本部長からは、「今年、JR東海が発足して満二十年が過ぎて二十一年目を迎え、お客様のご利用も順調で、第一―四半期の輸送量は対前

年で一〇三・七%。万博があった前々年と比べても一〇三・六%と好調に推移していること。また、この七月にはN700系が登場し、東海道新幹線のこれまで築いてきた歴史文化伝統を受け継いで、磨きをかけて次につないでいくこと。」などの重要性とさらには「次の二十年、JR東海を、更に発展させることが出来たら、これほど幸せなことはない。」「OB会皆さんのJR東海に対する愛情とご支援に感謝すると共に、今後とも引き続きお願いいたします。」とのご挨拶をいただきました。

続いて、長田副本部長に乾杯のご発声をいただき、参加者全員が和やかに歓談し盛会裡に終了しました。

東海鉄道OB会

名古屋地方本部表彰式・総会

名古屋地方本部 事務局長 加藤寿美夫

平成十九年度東海鉄道OB会名古屋地方本部表彰式・総会を、六月八日(金)十一時三十分から名古屋市内愛知厚生年金会館内会議室で、地方本部全役員(地

方本部長・全支部長ほか)、受賞者の合計六十名に、来賓としてJR東海の東海鉄道事業本部管理部糸魚川総務課長様、東海鉄道OB会本部の杉浦専務理事をお迎えして開催した。

最初に、表彰式を次のように執り行った。

○平成十九年度名古屋地方本部長表彰式

①表彰状授与

長年に亘りOB会の発展と業務運営に多大の貢献をし、業績を挙げた二団体、十三個人に地方本部長から一人ひとりに表彰状を授与し、その労をねぎらった。

受賞者は次のとおり。(敬称略)

【団体】 四日市支部

【個人】

- 三河支部 水越美行 / 半田支部 小田永一
- 笠寺支部 村上定昭 / 名古屋機関区支部 加藤鋼一
- 滋賀県支部 土田秋夫 / 岐阜工事局支部 五島良三
- 高山支部 山崎件造 / 東濃支部 倉地精吾
- 中津川支部 後藤金正 / 蟹江支部 山田幸三
- 津島支部 村上 暢 / 四日市支部 紀平武司
- 津支部 波多野照生

②地方本部長祝辞

③来賓祝辞

来賓を代表して糸魚川総務課長様から祝辞と、JRの現況報告等を兼ねた挨拶があった。

表彰式に続き、受賞者を囲み来賓、参列者一同による昼食懇談会に移り、参列者を代表して松本三河支部長の乾杯の音頭で始まり、一同心を和ませて懇談した。午後の行事の都合で席を立たれた糸魚川総務課長様を、拍手でお送りし少憩ののち地方本部総会に進んだ。

まず最初に、平成十八年度中に物故された会員三百二十八名の方々への冥福祈念に始まり、新任支部長六名を紹介して地方本部長挨拶に進んだ。

平井地方本部長からは①組織基盤強化に強力な後押しがあることを忘れないこと②いささかなりとも恩返しのためJRグループに対する協力活動が必要であること③組織の発展には活発な会員増強活動と支部の活性化が是非とも必要であること④会員との相互連携には原点に戻った会報配付が必要であること等を内容とした挨拶のあと、杉浦本部専務理事から東海鉄道OB会の現況とOB会の今後についての厳しい意見や、励ましの言葉をいただいた。

なお、総会ではここで参議院議員藤野公孝先生の国政報告を聞くことになっていたが、国会の都合で来名できなくなり、急拠フアックスされたメッセーヂの披露のみとなった。

続いて議事に入り、

①東海鉄道OB会総会で役員改選があつて会長が交代し、齋藤翁東海キヨスク社長が新会長に選任された旨を連絡した。

②平成十八年度事業報告と収支決算表の説明と、これに対する中川会計監査員の監査報告があり、質疑があつて承認された。

③平成十九年度予算案では説明に続き、「経費節減に最大限努力する」をつけ加え、質疑の後これも承認された。

④支部の新設、合併で



は新幹線施設系統の支部新設と、千種名東・鶴舞両支部合併による名古屋東支部発足を説明した。その他、地方本部連絡事項として、毎年恒例のJRバス五両による地方本部主催団体旅行については、参加することを例年にも増して真剣に考えて、より盛会にしたいと要望した。また、最後に添付した資料「会員数異動状況」については、各支部が改めて将来展望を考へての施策を樹て、支部活動を実施してほしい旨を要望し、予定を過ぎた十四時過ぎ終了、散会した。

第三回東海鉄道OB会 東海大阪地方本部総会を開催

東海大阪地方本部 事務局 八木芳博

平成十九年七月十八日(水)に「東海鉄道OB会東海大阪地方本部第三回総会」がニューオオサカホテル「淀の間」において盛大に開催されました。

開会のことばに続き、片山地方本部長から東海大阪地方本部の会員拡大及びレクリエーション等の積極的な取組に対し、東海鉄道OB会本部より、東車両支部長が役員功労表彰を受賞された事の披露がありました。また、レクリエーション活動については、第四回ゴルフ大会、第二回ハイキング、第二回菊作り講習会を開催して、一定の成果を挙げた旨の挨拶がありました。

続いて議事に入り、吉岡事務局から十八年度活動報告と収支決算報告並びに十九年度活動方針案として、昨年引続き「組織拡大とレクリエーション実施の取組み」等の重点目標を提案して満場一致で決議

されました。

また、平成十九年度予算案、役員改選では、吉村事務局長と森下電気支部長が退任され、新しく吉岡事務局長、西村電気支部長が選任され決議し、活況のうち総会は終了となりました。

総会終了後、引続き懇親会に移り、東海旅客鉄道株式会社坪内総務部長、小出総務課長、杉本執行役員関西支社長、関西支社幹部をはじめ、平井東海鉄道OB会副会長、法人会員の代表等多くの方々にも来賓として参加して頂き、OB会員との楽しい会話も弾み、旧交を温めて、盛大のうちにお開きとなりました。



平成十九年度の本部及び各地方本部の役員紹介

本年度の本部及び各地方本部の総会で決定した役員は次のとおりである。

- 〈会 長〉 齋藤 翁 (新任)
- 〈東海東京地方本部長〉 建守 猛 (新任)
- 〈静岡地方本部長〉 小尾 嘉俊 (留任)
- 〈名古屋地方本部長〉 平井 義朗 (留任)
- 〈東海大阪地方本部長〉 片山 好郎 (留任)
- 〈本部〉 専務理事 杉浦 定行 (留任)
- 専務理事代行 中川 博行 (新任)

暮らしと年金

年金問題がテレビ・新聞ニュースで報道されています。これを機会に、もう一度ご自身の年金納付記録を確かめてみてはいかがでしょうか。

「年金手帳」「年金証書」による基礎年金番号の確認

公的年金制度では、平成八年十二月までは加入されていた年金制度ごとの番号により、加入者の方の年金加入記録を管理してまいりましたので、一人の方が複数の年金番号をもっていました。しかし、照会や年金請求をする際の不便を解消するため、平成九年一月からすべての公的年金制度に基礎年金番号を使用することになりました。「一人に一つの番号」です。この基礎年金番号は、保険期間・納付期間などを照会するときに必要になります。

二年金加入記録を確認

年金は働いていた職業によって制度が変わる場合があります。従って年金制度の違う職業間で転職をした方は、ご自身の年金記録が一つの基礎番号に集約されているかをチェックすることも大切です。

加入期間や保険料を納付した記録は「年金手帳」「年金証書」でも分かりますが、**全国都道府県にある社会保険事務所**で「被保険者記録照合票」を取り寄せて確認することができます。

ご自分の内容に相違、不明な点があるときは、**社会保険事務所の窓口**でご相談ください。

(詳しくは支部からの折込資料をご覧ください。)

「千種名東支部総会」 鶴舞支部との合併を決議

千種名東支部 事務局 伊藤典男

本年度の千種名東支部の総会を六月一日に、愛知厚生年金会館において十一時から開催しました。

JR東海から東海鉄道事業本部管理部総務課小林課長代理様、千種駅長様、ツアーズ千種支店長様のご来賓と隣接する鉄道OB会野々山鶴舞支部長様のご来賓を迎え、昨年度の物故会員五名のご冥福を祈念する黙祷をし、支部長挨拶の後に、JRご来賓各位様からJR東海の近況、今後の施策等についてのお話を承り特に千種駅長様から昨年度の千種駅前の清掃美化運動と昨年度の千種駅企画の「さわやかウォーキングの応援協力」に、誘導案内に多数参加して成功裡に終わったことを感謝されました。

次いで議事に入り、支部長から支部経過報告があり、その中で会員の高齢化と新規加入者の皆無に近い傾向から、会員の減少が目立つ憂慮すべき現象であると説明された後、四月の支部情報で会員全員に提案しました「千種名東支部と鶴舞支部の合併」について説明し、質疑応答の結果、提案どおり千種名東支部と鶴舞支部との合併が次のとおり可決されました。

- 一 千種名東支部と鶴舞支部との合併については、両支部で細部の協議が整い次第、十九年度内に合併する。
- 二 新支部の名称は、今後の名古屋市内各支部の将来展望を考慮して、「名古屋東支部」として発足する。

三名古屋東支部の新役員は

- ① 暫定措置として合併後の支部総会までは、両

支部長が指名する。

- ② 暫定支部長は、現千種名東支部長を、代行は鶴舞支部長を充てる。

四 新支部の総会は、二十年度早期に開催する。
五 合併後の十九年度内の新支部の基本方針、行事等は十九年度千種名東支部の基本方針及び行事計画による。

次いで、支部の行事等の計画説明があり、支部主催の本年度のレクリエーションは、歩こう会二回、麻雀大会二回、囲碁研究会一回、カラオケ大会一回、ゴルフ大会は地本大会へ参加することとして決定し、クラブ主催の行事は各クラブで呼びかけて行うこととしJR増収協力は春の地区協議会主催、秋は地方本部主催のOB会旅行に多数参加し、さわやかウォーキング応援は千種駅企画の十一月三日に市内の他支部と合同して参加することとし、その他の支部活動も決定して総会を終了し、JRご来賓と野々山鶴舞支部長を交えて懇親会に移り、和気藹々のうちに懇談を重ねました。

「元気で頑張る」ことを 確かめ合って

菊川支部 事務局長 八木一嘉

静岡地方本部菊川支部総会は、六月三日十時三十分より、三十一名の参加のもと市内の町部地区センターで開かれました。

当日は来賓として、JR東海静岡支社電気課長、菊川駅長、東海鉄道OB会静岡地方本部長のご臨席を賜り、小さな支部としては盛大に、かつ成功裏に開催できましたことを感謝いたします。

また、毎年、来賓として参加をいただいている柳沢伯夫厚生労働大臣が、年金問題等で国会を離れられず、今年も欠席となりました。「立候補時代から、地元鉄道OB会が、いつも応援してくれていたことを決して忘れない」というのが大臣の口癖です。

当支部では、長い間、支部の発展に尽くしていただいた野中支部長が勇退され、山田支部長の新任のほか、一部の三役の交代が満場一致で承認され新体制に移行しました。総会では、別紙に続き会員の日常生活活動・旅行・グラウンドゴルフ大会・忘新年会・市役所内に設置してある動輪の管理などを通して、会員の交流・親睦を深め、元気で会員の幸せと地域への奉仕に努めることを確認しました。

総会終了後、「菊川支部懇親会」を開き昔の話に花を咲かせ、有意義なひとときを過ごしました。さらに二次会にも率先参加、カラオケ店で、ドラ声や美声を張り上げた「お達者じいさん」も大勢いて、OBとはいえない元気がいっぱいでした。

(別紙)

中嶋孝副支部長に対し、永年の役員功労が認められ堀内章前東海鉄道OB会長からの表彰状が伝達され、全員で祝福致しました。



名古屋資材支部総会

名古屋資材支部 副支部長 米澤 董

六月九日(土)、平成十九年度名古屋資材支部の総会

をホテルアソシア名古屋ターミナルにおいて開催しました。会員八十六名中三十五名が出席して、名古屋地方本部の加藤事務局長の出席を得て総会に入りました。

初めに、昨年度に亡くなられた五名の方々のご冥福を祈念して黙祷。津谷支部長の病欠欠席による米沢代理の挨拶に続き高輪会員にOB会長からの賀詞の伝達と支部からの記念品を贈呈しました。

続く来賓挨拶として、名古屋地方本部長の祝詞を加藤事務局長から披露いただきました。

議題に入り、平成十八年度事業報告と会計報告及び平成十九年度事業計画と予算案の二件を提案し質疑のち、原案どおり満場一致承認されました。

事業計画は昨年につき、会員相互の親睦と併せてJR社員との親交を深めるとともに、グループ各社の営業活動に積極的に協力していくことを申し合わせました。なお、会員の現況については、総会に出席できなかった方々の体調や病状などを一覧表に取りまとめ、全会員に配付、お互いに気をつけかばいながら、励ましあうことで会員の健康維持の一助にと活用していただくことにしました。

議事のあと、加藤事務局長からOB会の当面の諸問題を聴き、特に支部の活性化について、年一回の総会だけではなく会報九号に掲載された「伊勢支部の活動状況」を参考にしてより活性化に努めるようにとの指導をいただきました。

以上が総会の概要ですが、当支部は数少ない職域支部のひとつで会員が愛知・岐阜の両県を中心に三重・滋賀県など東海全域に幅広く散在しております。また、会員規模も年々減少の傾向にあり今後支部のあり方、活性化に向けて関係の地域支部との交流等を検討

しなければならぬと考えております。

懇親会には、来賓としてJR東海管財部資材課の松井課長代理様ら六名の方々に出席をいただき、代表して松井課長代理様から「JR東海の現状と資材調達」を中心とした丁寧な挨拶をいただきました。

乾杯のあと、お互いに一年ぶりの顔みせということもあって、近況や健康状態などを語りあい、和気あいあいと時間いっぱいを楽しみ再会を約し散会しました。

蟹江支部総会開催

蟹江支部長 東 昇

四月二十九日(日)、祝午前十時から地元の温泉「尾張温泉ホテル・観光センター」において、第三十七回蟹江支部総会を三十三名出席のもとに開催しました。

始めに物故会員の冥福を祈念した後支部長あいさつ、続いて長寿会員に会長からの寿詞の伝達と支部からの記念品を贈りました。また、新入会員の紹介では、出席者一同が拍手で祝福しました。

来賓には東海旅客鉄道(株)三重支店西村工務課長、桑名駅中森助役、平井名古屋地方本部長のご臨席をいただき、西村課長からは、十九年三月期決算短信をメインにした一年間の総括と新幹線「N700系」への取り組み、関連事業の拡大等JRの現状と今後の動きについて、常に「安全」「安心」を必須条件に輸送の基幹産業として社員一丸となっていることを強く述べられました。

続く平井本部長からは、今後の東海鉄道OB会についての会員増強、JRへの増収協力。またOB会報を

充実するため短歌、俳句、随筆、写真等の積極的な投稿をお願いしたい旨要望がありました。

議事は原案どおり承認可決され、本年も会員増強、JRへの増収協力と毎年好評の支部旅行等OB会活動をより活性化、会員相互の親睦を深めることを申し合わせ、総会会場をホテルから観光センター演芸場に移動。

十一時から杯を交わしながら観劇、歌謡ショーを楽しみ、お互いに苦しかった国鉄時代、また楽しかった若かりし頃にタイムスリップ、何もかも忘れて癒される貴重な時間となり、先輩・後輩のよき人間関係醸成に最適の場となりました。十三時まで歓談ののち、都合で帰路につく人以外は入浴に向かう人、引き続き観劇を楽しむ人等十五時までゆっくりと充実した一日を過ごし、会場を後にする会員一人ひとりが「来年も元気で会いましょう」を合言葉に別れを惜しんで散会しました。

第二回「菊作り」講習会の開催

東海大阪地方本部 事務局 八木芳博

平成十九年五月三十日(水)にジェイアール東海関西開発(株)本社A会議室において、第二回「菊作り」講習会を開催しました。今年も講師を井上先生にお願ひし、「五月から毎月の作業スケジュールの菊ダイアリーについて」挿し芽、小鉢移植、五号鉢移植、七号鉢移植、追肥、柳芽処理、つぼみ選定、輪台取り付け、土麴、田土作り、苗の管理、乾燥肥料の作り方、培養土の割合割合などの作業についての説明、指導を頂きました。参加者からは、病気、害虫、肥料、柳芽処理などの質

問があり、菊作りの技術の向上と、同じ趣味を持つ者同士の情報交換の場所として、二十名の受講者は熱心に講師の説明を受け無事終了しました。そして受講者全員に、井上先生から菊の苗木が「プレゼント」されました。

菊は、古より愛して止まなかった国の花、日本では奈良時代からと言われ、せわしい情報化社会の今こそ原点に戻って心豊かに花を育てたいものです。



第2回 菊作り講習会

浜松東支部定期総会

浜松東支部長 松本 忠

平成十九年六月三十日十時三十分から平成十九年度浜松東支部定期総会を、平成十八年十一月十一日に浜松駅コンコース西側に「メイワン エキマチ」をオープンした「浜松ターミナル開発(株)メイワン」八階の「貸会議室」において開催しました。

今年、会場の都合もあつて大変遅れて梅雨期の最中の開催となり当日の天気心配されましたが、幸いにも天候には恵まれましたが、JR東海の人事異動が七月一日付と云うことでJR関係の来賓は、坂口勝芳浜松駅長(七月一日以降の静岡駅長)のみでしたが、静岡地方本部から小尾本部長の御出席をいただき、会員三十名が出席して開催しました。

総会にさきだつて、前年度中に逝去された方々の冥福をお祈りして黙祷を捧げ、続いて支部長の挨拶、来賓の挨拶が行われましたが、特に来賓としての小尾静

岡地方本部長の挨拶では、目前にせまった参議院議員選挙への対処方、特に年金一元化問題について熱心にお話を頂き、会員一同支部活動の重要性を強く認識しました。

続いて、総会では平成十八年度の会議、その他の行動について報告、それに引き続き会員数についてこの一年間に七名の方々に新規加入していただきましたが逝去者六名、健康上の理由等による退会者四名と十名の減少となり、会員数は百五十六名となり会員の増強についてなお一層の努力が必要との報告がなされ、それに続いて平成十八年度決算及び会計監査報告が行われました。

次に、平成十九年度事業計画については、①会員の増強②会員相互の親睦③JR東海及びJR関連グループへの協力④年金制度等の対応⑤社会福祉への寄与について、関係箇所との連携を深め、事業を進めて行くこととし、会員の増強・年金制度対応について、特に関心をもって対応することを、平成十九年度予算と共に承認し総会を終了しました。

引き続き懇親会に移り会場を同じメイワン八階の「シャンボールガーデン」に移し、和やかに近況を語り合い、お互いの健康を喜び合い大いに盛り上がり、午後二時に散会しました。

原支部定期総会開催

原支部長 飯田宇作

東海に過ぎたるものが、二つある(駿河の富士に原の白隠)と詠われた原地区に、国鉄のOB会が誕生して早や三十有余年が過ぎ、その間先輩OBの皆様方の

努力により今日まで良き伝統を残しながら発展して参りました。

平成十九年度支部総会を六月三日原自治会館に於いて開催。来賓として、J R 沼津駅長、地方本部白井事務局長、沼津支部長各氏のご出席を頂き平成十八年度事業報告、会計報告、役員改選及び平成十九年度運動方針が原案通り承認されました。席上役員功労表彰及び米寿、喜寿の方々に賀詞を贈呈、特に今回は賀詞の贈呈者に案内状を送り総会に招待致し、出席者五名のうち女性二名の方が参加されたことは原支部として初めての事でありました。

今年度は、十八年度の事業実績を検討し会員の高齢化が進む中で、OB会本来の目的である(会員相互の親睦と扶助)の精神を基に会員や地域社会の為に何が出来るのかを考え平成十九年度事業計画を作成、次の三点を重点項目として定めました。

- 一 会員の増強について
- 二 支部活動の活性化について
- 三 J R に対する協力

この目標に向かって、高齢化が進む会員とどのように向かい合っていくのか、大きな課題であります。年三回行っているJ R 原駅構内の清掃等の場合、高齢の会員には参加する事に意義があると話し、参加を呼びかけており年末に行う駅玄関口に飾る門松は、今年で四年目となり先輩の知恵を借りながら若い会員が作る。分担作業を通じ互いのコミュニケーションを図ることができ、同時に原駅を利用する乗客からも大変喜ばれ、地元静岡新聞に掲載されOB会の活動を多くの市民に知って頂く良い機会になりました。

今後は、地域と連携を取りながら支部活動を進めて行くことを確認し総会を終了、その後福祉法人(春

風会)理事大竹俊郎氏(原支部顧問)による、介護保険制度についての解説を受けました。平成十七年十一月(特養ホームについて)本年三月(介護保険制度について)小冊子を作成して頂き会員に配布、高齢化が進む中、会員や家族の介護保険制度を利用する側からの解説は参考になりました。

- 一 介護サービスの申請から特養ホーム入所まで
- 二 介護予防の利用者負担
- 三 特別養護老人ホームに入所した場合の自己負担額
- 四 特養ホームの介護サービス内容等

質疑応答の後、懇親会に移り和やかなひと時を過ごしました。

津支部総会

津支部事務局長 岡山嘉久

平成十九年五月十二日、津市内プラザ洞津で東海鉄道OB会に移行して第三回目の総会を三十二名の出席のもとに開催しました。

初めに、この一年間で亡くなられた会員の冥福をお祈りし黙祷を捧げ総会に入りました。

総会は、平岡支部長の挨拶に続き、賀詞贈呈式に進み、米寿、喜寿方々のお名前を披露し、当日出席の元支部長服部泰輔氏の米寿に対し鉄道OB会会長からの賀詞を支部長が代読して贈呈しました。

来賓としてご臨席のJ R 東海三重支店武管理課長、森上津駅長からは、J R 東海の経営状況、三重支店管内の営業成績、伊勢神宮の式年遷宮に対してのお木曳

行事、世界遺産である熊野古道への取り組み等の近況が述べられました。

又、鉄道OB会名古屋地方本部加藤事務局長が地方本部長のメッセージを代読され、今後の鉄道OB会の取り組み方について述べられました。

引き続き、事務局の会務報告で四名の新入会員を紹介して議事に入り、本年も三本の柱「新入会員の勧誘」「J R への増収協力」「会員相互の親睦の増進」を進めて行く中で、

- ◎ S L 清掃、津偕楽公園に保存されている蒸気機関車の清掃美化を津市と清掃業務委託を締結し、平成三年から十七年間、年二回(九月、三月)続けており、本年も実施する。
- ◎ 支部主催の親睦旅行、昭和五十八年から毎年実施し、今年で二十四年間続け、本年も九月に一泊二日の予定で「三谷温泉の旅」を計画している。
- ◎ 駅構内清掃美化、毎年七月のJ R 津駅の無人管理駅(一身田、阿漕、高茶屋)構内の清掃美化を本年も実施する。

- ◎ 地本主催の親睦旅行、移籍した平成十六年度から参加しており、本年も五、六名の参加を予定している。

議事は原案通り承認、可決され、平成十八年度決算、平成十九年度予算案も承認し総会を終りました。

引き続き、懇親会に入り会員相互の親睦を深める和やかな一日を過ごしました。



JR東海ト

ピックス

JR東海の社内誌「おれんじ」7月～9月号の記事を抜粋して掲載しています。

新幹線鉄道事業本部

過去最高となる5万人超のお客さまがご来場

浜松工場 新幹線なるほど発見デー

夏休み恒例イベント「新幹線なるほど発見デー」を7月21日と22日に開催しました。

21日はあいにくの雨天でしたが、22日は晴天に恵まれ、両日合わせて昨年を1万名以上も上回る過去最高の5万897名のお客さまにご来場いただきました。今年も、7月1日にデビューしたN

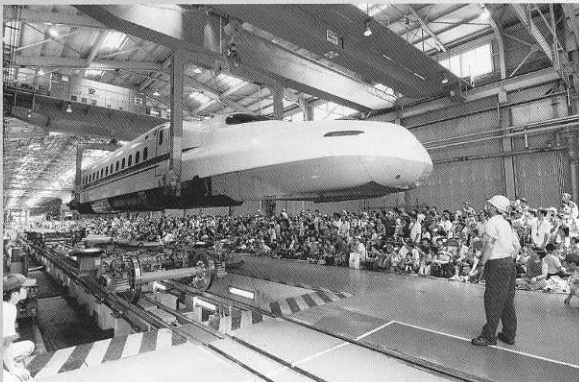
高の笑顔でお見送りをしました。大変多くの新幹線ファンのお子さまが、「また来年くるね」と笑顔で手を振ってお帰りになる光景を目にするのは、運営スタッフにとって最高の喜びでした。

700系の車両で、運転台見字や車体上げ・乗せ作業実演を行いました。会場では0系から700系までの新幹線車両やドクターイエローなどの車両の展示、ちびっこ制服運転士記念撮影コーナー、スタンプリング、新幹線紹介コーナー、ぬりえやパーパークラフトができる体験ワークコーナーや鉄道模型コーナー、制服を着た新幹線乗務員とお子さまと一緒に記念撮影をするコーナーなどを設けました。魅力一杯の催し物で、会場内には長蛇の列ができました。

また、今年初めて駅・運輸所からも運営スタッフとして社員が参加しました。朝はご来場されるお客さまを笑顔と挨拶でお迎えし、お帰りのお客さまには最



▶2日間で5万人超のお客さまがご来場



▲デビュー直後とあってN700系は注目度抜群



▲憧れの新幹線と一緒に「ハイ、ポーズ！」

東海鉄道事業本部

社員自らが考え、行動する

JR東海 イメージアップ活動

8月6日、名古屋マリriottアソシアホテルで開催した東海鉄道事業本部現場長会議の会場に、「JR東海イメージアップ活動」で作成されたポスターを掲出しました。

「JR東海イメージアップ活動」は、当社のイメージアップを目指し、社員自らがイメージ向上についての意見を出し合い、実践していく活動です。具体的な活動内容は、各現業機関で社員のアイデアによるスローガンを募集し、その中から選ばれた優秀作品を基にポスターを作成掲出し、各社員の意識向上を図っていきます。

アイデア満載で色とりどりのポスターは、現場長会議の話題に花を添えただけでなく、活動に参加した社員一人ひとりの思いが込められており、各現場長も非常に強い刺激を受けた様子でした。

今後は作成されたポスターの中から優秀作品を選考し、表彰を実施する予定です。



▲社員の思いが込められたポスター



▲現場長会議で力作のポスターを掲出

◆ JR 東海トピックス ◆

営業本部

エクスプレス予約・TOICA

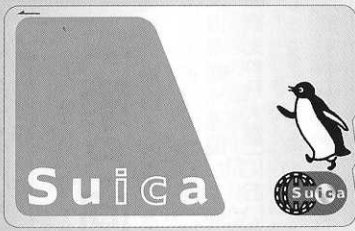
ICサービスで東海道新幹線のご利用がますます便利に！

東海道・山陽新幹線区間において、約90万人の会員の皆さまにご利用いただいている「エクスプレス予約」では、携帯電話やパソコンから予約したきっぷを券売機等で受け取っていただいておりますが、

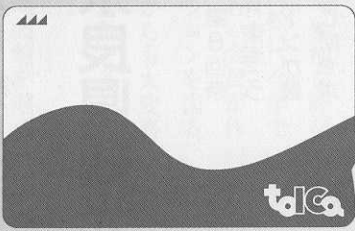
来年3月からは「エクスプレス予約ICサービス」により、予約したきっぷの受け取りを省略し、新幹線改札機に「エクスプレスICカード」をタッチするだけで、東海道新幹線にご乗車いただけるようになります。

サービスとの「相互利用」も行います。これらのICサービスにより、東海道新幹線と首都圏、中部圏、関西圏の在来線の乗換えも、新幹線乗換改札機にICカードをタッチするだけとなり、東海道新幹線のご利用がますます便利になります。

また、昨年11月より名古屋地区でサービスを開始し、ご好評をいただいている都市圏ICサービス「TOICA」のご利用可能エリアを来年3月に静岡地区に拡大し、JR東日本やJR西日本の都市圏IC



▲ Suica



▲ TOICA



▲ ICOCA



▲エクスプレス IC カード

建設工事事務所

実験線全線完成に向け一丸となって取り組む

山梨リニア実験線工事事務所開所

山梨リニア実験線工事事務所が、都留市大原に所長以下5名の体制で7月1日に開所しました。

山梨リニア実験線においては、平成9年より先行区間18.4kmでの試験走行を実施してきましたが、今後は、基盤技術が確立した設備を実用化仕様様に全面的に変更するとともに42.8kmに延伸した上で、超電導リニアの実用化確認試験を行うっていくことにしています。

実験線延伸工事については、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構と協定を締結し進めていきます。当社は主として、現在の実験線の設備更新及び東側への

延伸区間約8kmを担当し、山梨リニア実験線工事事務所において、これらの工事の施工・工程管理並びに地元協議等の業務を行います。

現在は、本格的な工事の着手に向け準備作業を行っており、一日も早い山梨リニア実験線全線の完成に向け所員一丸となつて取り組んでいきます。



▲山梨リニア実験線工事事務所の皆さん



※ 東八代郡境川村、八代町、御坂町は、平成16年10月より苗吹市に、南都留郡秋山村は、平成17年2月に上野原市にそれぞれ改称

◆ JR東海トピックス ◆

広報部

「うましうるわし奈良」キャンペーン

「第8回奈良県観光PR大賞 最優秀賞」受賞

奈良県観光連盟が主催する「第8回奈良県観光PR大賞」において、JR東海「うましうるわし奈良」キャンペーンが最優秀賞を受賞しました。テレビCMやポスターに加え、交通広告やCD発売など複合的なキャンペーン展開が、奈良県の観光振興に貢献したことを評価され、昨年の優秀賞に続く受賞です。

「うましうるわし奈良」キャンペーンは、寺院や仏像、景観などを紹介することを通じて、日本の原点である奈良を「再発見」するというコンセプトのもと展開し、奈良関係の旅行商品の販売も好調に推移しています。



▲受賞式の様子（前列左から2人目が宮澤広報部長）

「うましうるわし奈良」キャンペーン これまでの展開

● 17年10月～「大仏篇」「東大寺篇」



▲東大寺篇



▲大仏篇

● 18年1月～「お水取り篇」



◀お水取り篇 (右はテレビCM)

● 18年5月～「薬師寺篇」



◀薬師寺篇 (右はテレビCM)

薬師寺には1300年前から残る「東塔」と、1300年前を再現した「西塔」があります。これら2つの塔をモチーフに、創建当時の姿と1300年後の姿を同時に見られるという、薬師寺ならではの魅力を紹介しました。

● 18年12月～「法隆寺篇」



◀法隆寺篇 (同左)

聖徳太子が「十七条憲法」として制定して以来、大切にされてきた思い「和を以って貴しと為す」をテーマに、現代にも通じる法隆寺の世界観を表現しました。

● 19年4月～「興福寺篇」



◀興福寺篇 (同上)

天平期の仏像を代表する国宝「阿修羅像」を中心に、五重塔・東金堂などの建築物など、興福寺ならではの魅力を凝縮して紹介しています。

また、テレビCMのBGMである「Again～ダッタン人の踊り」は、テレビCM放映直後から問い合わせが殺到するなどのご好評をいただいたため、18年5月からCDとして発売しています。

「うましうるわし奈良」キャンペーンは、2010年に迎える平城京遷都1300年に向けて、今後とも着実かつ継続的に展開していきます。



▲昨年5月に発売したCD「Again」

///グループインフォメーション



多業態にわたる飲食店舗を運営

ジェイアール東海フードサービス(株)

当社は沼津から新大阪までのエリア、特に名古屋地区を中心にして、ラーメン、ベーカリー、喫茶、和洋中の各料理など様々な業態で約 50 の店舗を運営しています。3 月には、新たな業態として、カウンター形式のカレーショップ「wave」を名古屋駅の「うまいもん通り」に開業しました。

近年、駅構内及び駅周辺の飲食店舗等との競争が厳しさを増していますが、当社ではより多くのお客さまにご来店いただけるよう、飲食店の基本である食品衛生面はもちろんのこと、料理の味、メニューの品揃え、接客サービス等の面で一層のレベルアップを図るべく、今後とも努力してまいります。

皆さまのご来店を心よりお待ちしております。



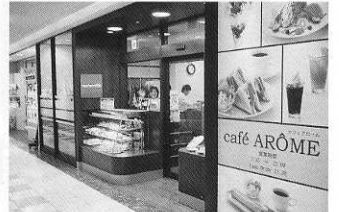
▲一番の売れスジ! カツカレー



▲新聞でも紹介された名古屋城パフェ



▲「Curry&BeerBar wave (ウェーブ)」名古屋うまいもん通り



▲「cafe ARÔME (カフェアローム)」名古屋新幹線通り



タワーズの施設全体を管理・運営

Towers ジェイアールセントラルビル(株)

当社は名古屋駅の直上に位置する駅ビル「JR セントラルタワーズ」(以下「タワーズ」)の施設全体の管理及びタワーズ内のオフィスやレストラン街「タワーズプラザ」、駐車場などの運営を行っています。

当ビルの 12、13 階にあるレストラン街「タワーズプラザ」では、和食やイタリアンなど色々なジャンルの飲食店が 37 店あり、タワーズに来館されるお客さまをおもてなししています。季節ごとの催事を始め、12 階にある「タワーズプラザギャラリー」では年間を通じて絵画、オブジェ、写真等の展示企画を実施するなど、お食事以外の楽しみもご用意しています。

元気名古屋の象徴として常に魅力溢れる施設の提供と、より質の高いサービスの提供を心がけ、名実ともにランドマークとするため社員一丸となって業務に取り組んでいます。



▲タワーズプラザ



▲JRセントラルタワーズ



電気設備の工事・保守を通じて安全・安定輸送に貢献

新生テクノス(株)

当社は、JR 東海グループ唯一の電気設備工事会社です。前身の新生電業が昭和 22 年 5 月に創業してから、本年度で創立 60 年を迎えました。

新幹線 N 700 系運転に向けた信号・電車線設備改良や電源設備増強、高山本線災害復旧などの工事では、協力会社と一体となって信頼性の高い施工体制を整備し、「しっかりした技術・技能」と「誠実な作業」により、「安全」で「確かな品質」の施工を行い、JR 東海の安定輸送に貢献しています。また、駅設備改良に合わせた駅構内商業施設リニューアル工事などを通じ、グループ各社にも貢献しています。

さらに、各種工事における作業方法について標準化を進め、経験の違いによる個人差をなくするとともに、若手社員への技術指導や能力開発を積極的に推進し、技術力の維持向上に努めています。

今後も、山梨リニア実験線延伸や新大阪駅ホーム増設、在来線 ATS-PT 導入などのプロジェクト工事に取り組み、JR 東海の発展に貢献してまいります。



▲トロー線新設工事



▲列車無線通話試験



2007
AUTUMN

いつでも誰でも気軽に参加できる

さわやかウォーキング

9/8(土)~12/23(祝) 土・日・祝開催

参加費無料

一部のコースを除く

予約不要

一部のコースを除く

駅がスタート!

一部のコースを除く



名古屋・飯田地区

49コース

カメのマスコット
キャラクター
名前大募集!!



静岡地区

38コース

静岡地区
さわやかウォーキング
1,000回記念キャンペーン



さわやかウォーキングに、
便利でお得なきっぷ。

名古屋地区:青空フリーパス
静岡地区:休日乗り放題きっぷ

写真はイメージです。



開催については、JR東海の駅にある専用パンフレット又は、ホームページをご覧ください。

JR東海ホームページ <http://jr-central.co.jp>

読者のひろば

飯田線の電車転落事故

飯田支部 清水清勝

電車転落事故から五十二年が経過しました。

私が国鉄に採用されたのが、昭和二十一年一月二十日でした。当日は私の採用記念日でしたので、夜家族でお祝いをして就寝につきました。当時は殆ど家に電話のない時代でしたから、非常召集は徒歩か自転車と連絡していました。二十二時頃でしたが、電車転落事故の非常召集を受けました。

一月二十日午後九時ごろ泰阜村内の田本〜門島間の大表沢鉄橋で、豊橋発飯田行きの下り普通列車二両編成が落石に乗り上げて脱線転覆しました。乗客は乗務員三名を含めて約五十人のうち五人が死亡、三十一人が重軽傷を負った大惨事でした。

非常召集で最寄り駅に集まった保線区職員は、軌道モーターカに器具と材料を積んで転落現場に急行しました。現場では駅員と地元消防団の人達が多数協力して、担架で死傷者を運搬していました。一両目は鉄橋の橋脚の基に裏返しになっており、二両目は電車本体は台車と本体がばらばらで、約二十米下に昔は竜東線と言い、天竜川に沿って東側に人馬が通行した道路があったがその道路上で止まっていました。

当日の天候は雨が霽に変わり、約一糎の雪がありました。原因は線路内に落ちていた落石に乗上げて脱線転落したのですが、警察が脱線現場に来て乗上げた落

石を見て、復旧作業の許可をくれませんでした。脱線した場所は鉄橋の十米手前で、右側は傾斜が約四十度の山林で百米上方に県道が通っているので、誰か故意に石を落としたのではないかと、厳しい事情聴取があり、その後復旧作業の許可がでたので、線路の復旧作業は曲がったレールのくせ直しと、折れた枕木を交換して翌朝初列車までに復旧しました。

翌年春の彼岸に飯田線国鉄職員有志で慰霊碑を建て、命日には慰霊碑に献花をして供養していました。当時の生存者も減少して命日に訪れる人も少なくなりました。平成十九年も命日に供養に行つて来たが、私を含めて三人が参拝に訪れたが遺族の参拝はありませんでした。

数々の事故や災害も経験したが、私の鉄道生活で記念すべき採用記念日に発生した大惨事でしたので、私は体力が続く限り命日には参拝したいと思っています。

写真は昭和三十一年春の彼岸に飯田線国鉄職員有志で建てた慰霊碑です。



父の後ろ姿を見て

西濃支部 藤田年樹

私が小学校四年生の時に、国鉄に勤めていた父が、職場の都合で家からの通勤が出来なく、官舎に義務居住しなければならなくなり、早速一家で官舎に住むようになり、引っ越しをしました。

官舎住まいして暫くしてから、子供心にも少しづつ父の仕事振りが段々と分つてきました。

先ず最初に感じた事は、毎朝六時になると一度制服を着て駅へ行って、一時間位で又帰ってくるのです。それは当日の局報を一度駅で読んで中に難解な字や、解釈が分らない項目が有ると兄に聞いたり、辞書を引いたりして調べていました。

後で分つたことでしたが、十分な学校を出ていなかった父は、朝の点呼の際、勤務者に局報を伝達する為に準備していたのです。

その他にも冬になって気が付いた事は、父の勤務地は豪雪地帯で、毎年冬になると一晩で腰までぐらいは積もるため、降雪予報が出た夜等は必ず就寝前に寝室の外にあった一本の枕木の上の雪を完全に除雪してから就寝して、夜中に雪が降ってきたら、起きて窓を開けてその枕木の上に積もっている雪の量を見て、これは大雪だと思えば直ちに制服に着替えて駅へ出勤して行きました。

そして構内詰め所に行き、除雪計画にしたがって、重要ポイントの除雪、線路の除雪、除雪要員の配置手配等を指示して、雪との闘いをして朝まで帰ってこない時が冬は度々ありました。

私はこのような父の真面目な勤務態度、努力を、子供心に植え付けられ、段々と父を尊敬する気持ちが深

まってきました。

父は私が大陸で従軍中に亡くなり最後を見送る事が出来ず残念でしたが、子供の頃から父から受けた教訓は心にはつきりと残っておりました。そして自分も偉大な父の歩んだ道に進もうと心に決めた事でした。

あすなるの木

静岡支部 片平雅之

家の門柱の横にヒバの木がある。この家を建て替えた平成二年には、既に大きな木になっていて、切つてしまおうと思ったが、父が反対した。その時何故反対したかは、今覚えていないが、その木は十七年経つて更に大きくなり、十メートルを超える木となった。幅も増して門柱を覆うようになっていた。

昨年秋には剪定するとき、他の木が日陰にならないよう、先端を摘め、横幅も切り落とした。見るからにスッキリした木になっていた。

その木も、この梅雨の時期、昔の状態を取り戻したかと思っているのか、新芽が勢よく伸びている。

このヒバの木は、大木となる木であり決して見栄えのする木ではない。庭木としてはあまり喜ばれる木とは云えない。

何故亡父はこの木を切ることに反対したのかは、想像するしかないが五年ほど前に掛川城に行ったとき、みやげものの店の一角に、「ヒバの木」のことが書いた薄い本があった。拾い読みしたが、確かこのようなことが書いてあった。「ヒバはヒノキに似ているが違う。ヒノキはまっすぐ伸びても品もある、誰からも喜ばれるような木でもある。ヒバは思った、きつと努力するのならヒノキになれるのではないか。その思いが「あす

なるの木」と云われる所以だ」とのことが書いてあった。

父はあすなるの木を、入り口の門柱の横に植え、その家の子孫一人ひとりが、明日はヒノキになろうとする気持ちを忘れずに引き継いで欲しいとの想いを、口に出さなかつたが伝えたかつたのではないか。そんなことを思つてしまふ。

父は国鉄に奉職し、私と同じ施設の技術者として鉄道の安全輸送のため努力してきた。転勤も何度かした。子供達が成人するまでは官舎住まいであつたし、転校も数度したが、その五人の子供達もみんな普通の社会人として生活してきた。一番下の弟も六十近い年齢になつたしそれぞれ各々何とか生活している。これが出来たのも厳しい父の背中を見て育つたことによるものと思う。私も振り返るに、とても父にはおよびもつかない。その父もこの六月十四日十一回目の命日を迎えた。

外に出るとすぐ目に入る木である。近所の人は、私の年を気にして「早く切つたほうがいいよ、これから木に登つて剪定することが出来なくなるのだから、よかつたら手伝いましようか」と言つてくれるが、私はこの木を切るわけにはいかない。

父が残していった気持ちを思い計つて、子供、孫たちが、この木のことを感じて、ずうっと見守つてほしいと思う。木を見て父のことを思い出した。

三九会、のこと

三河支部 稲垣時二

三九会：とは、名古屋鉄道教習所、専修部第三十九期(旧)電信科卒業生のことです。

私が国鉄に就職したのが昭和十三年ですので、もうかれこれ七十年ほど前になります。

地元の愛知県幡豆郡寺津町立寺津尋常高等小学校高等科二年を卒業し、胸はずませて国鉄を受験、かろうじて合格、名古屋駅に備人駅手として配属されました。(日給一円)今のツインビルの前身、旧名古屋駅です。でも当時としては斬新で東洋一といわれた建物です。駅前の道路には市電がチンチンといつて走っていました。料金は片道八銭、往復買つと十三銭だつたと思います。我が国鉄の方は未だ電化されてはおらず、本線はC62、D51、支線はC11、C12型の蒸気機関車の時代です。

駅手の勤務は一昼夜交代で毎日々々便所掃除とダコ屋に明けくれ(ダコ屋とはタンツポ掃除のこと、連結手をカッポレ、と云つていました)。これはどうもならん!!と思い、その当時「雇員」となる最短距離とされていた電信科を受験したところ幸いに合格、名古屋市千種区内山町一丁目の名古屋鉄道教習所旧三十九期電信科へ入学しました。入学した者は中部八県(愛知・岐阜・静岡・山梨・長野・富山・石川・福井)から総員五十名が仮入所し、その内一割の五名が技術で帰され残つた四十五名が毎日ツートン・ツートンを繰り返して練習・寝る間もおしんで勉強しました。

卒業後は三九会と名付け折にふれ会合を重ねてまわりましたが、その内に一人減り、二人減り、お互いにいい年波と偽り、もう今では生存する者数名、集まれる者は三・四名と淋しくなりました。この三九会の出世頭は名古屋駅長で退職し榊見鉄道の社長を長くやりました、林 鍵(けん)さんこと林 鍵治君でした。この出世頭も亡くなつてもう五年程になります。

私も電信科を卒業後、名古屋電務区、刈谷駅、稲沢、幸田、大高、と転勤し、最後は飛騨の金山で国鉄を終り

ました。そうして卒業してもう三十年、この間民間会社で二十年七十七才の喜寿まで働きました。

今は八十五才の老翁となり、妻と二人で一人前の生活をおくっています。今つらつら思い出されるに記憶に残るもの、一つに刈谷駅当時天皇陛下のお召列車の運転がある全員でホームを清掃しホコリの立たないよう充分に散水してお召列車の通過を見守り(警護)ます。先頭に日の丸の旗をなびかせてC62の勇姿が通過して行きます。その力強さ、気品の良さは六十有余年過った今も忘れ得ません。

国鉄でもう一つの思い出は最後の勤務地となった高山線の飛騨金山駅に在勤中、今の天皇陛下、当時の皇太子殿下が下呂の湯の島館にお泊りになり、その帰路金山駅に停車、お言葉をお交わしたことでした。

時は移り国鉄がJRになり、世も変わり大正・昭和・平成と三代生き永らえて来ました。今私の居間には二十五分の一大の蒸気機関車(D51)の模型とパネルの写真、種々のコレクション等をながめ、その若き、良き国鉄時代をしのび残り少ない余生を一日々々大切に楽しく過ごしたいと頑張っています。

出来得ることならもう一・二回機会を作って三九会の方々とお会いし昔話に花を咲かせたいと希っています。

短 歌

夕陽背に友と散歩は老いの連れ

細く長くの影を踏みにつ

組み安し相手であれば罵倒をし

強きとみれば媚を売る人

中津川支部 細江 勲

新婚の旅で訪ねし上高地

前穂も梓川もそのまゝにあり

吹き上ぐる霧が沢鳴りを運びくる

鶴ヶ池辺も霧の下なる

津支部 岡 俊雄

アリの巣をコロリの毒薬一粒も

残さずアリが持ち去っている

銅堀りし老らは粉塵病とか

われも加わり診察受ける

浜松支部 原 哲

青刈りの藁の匂に歩をとめて

納屋にかそけき虫の音を聞く

秋の茶を刈り込む畝に白玉の

蕾小さく見え隠れする

裾野支部 池谷秀夫

俳 句

頬笑まし嫁と姑のパン作り

大空に向かいて咲くや鉄線花

水無月の花に溢れし誕生日

春日井支部 秋田深子

仁王像睨む一天雷走る

残照の堤に映える月見草

夕映の雲押上げて鳥柱

富士支部 田中義作

鬼燈の淡き紅色亡母偲ぶ

伊吹背に青田と麦の田圃かな

裏小路の暗き日陰や夏の花

西濃支部 高畑正良

鐘を撞く老僧新涼ふところに

一葉にも育む重み菊花展

庭石に一つ顔ある秋思かな

山東支部 久保田かよ子

くちなしの香に誘われて野良婦り

夕闇やくちなしの花浮ぶ白

番い鴨梅雨浴び遊ぶ葦の中

四日市支部 小川 勇

川 柳

若いねと齢を知らない人が言い

人生は曲りくねった道ばかり

沼津支部 山田寿男

筍の届かぬ里も代替り

行く先に合わせ余生の道普請

美濃太田支部 三島次朗

古時計少しおくれて時をうつ

自分では筋を通した頑固者

岐阜工事局支部 弓桁英二

体力の衰え防ぐ万歩計

絵に描いた餅に味付試みる

富士宮支部 渡辺定善

晩学の意欲へ虫の応援歌

生かされて脳を鍛えるドリル読む

大府支部 藤井芳雄

駅探訪

関西本線 かめやま 亀山駅

●開業/明治23年12月25日
●所在地/三重県亀山市御幸町



名古屋から普通列車の旅を楽しむこと一時間余り、JR西日本との境界駅、紀勢本線の起点である亀山駅に到着した。

亀山は起伏に富んだ坂の町。駅前から徒歩10分ほどの高台にある亀山城跡を訪れた。かつては三層の天守閣を構え、白壁に囲まれ、蝶が舞う姿を連想させることから粉蝶城とも称された。廃藩により取り壊され、今では多門櫓塀と倉庫を兼ねた櫓と堀、石垣を残すのみとなったが、ジグザグに入り組んだ道が、伊勢亀山藩6万石の城下町であった面影を今に伝える。

かつて亀山宿を知る旅人達の間では、「亀山に過ぎたるもの二つあり、伊勢屋蘇鉄に京口御門」と唄われた。伊勢屋蘇鉄とは、亀山宿の旅籠伊勢屋の庭先にあった名木、京口御門は亀山宿の西に位置するかつての番所のこと。安藤広重が浮世絵の構図に選んだ旅人泣かせの急峻な坂道は、今は敷の中に隠れて見えないが、坂上にそそり立つ京口御門を目指し、崖と呼びたくなるほどの坂を這い登った旅人達の苦労が偲ばれる。

その後、養蚕や茶の栽培、蠟燭などの地産産業が栄えた亀山だが、最近になって「亀山産」を謳った新型液晶テレビのCMが話題を呼んだ。液晶をはじめとするフラットパネルディスプレイ産業の世界的集積による地域づくりを目指す三重県のクリスタルバレー構想。その中核となる工業団地・亀山関テクノヒルズ工業団地には、企業誘致の成功事例として全国の自治体から熱い視線が注がれている。

江戸・日本橋から京都を結ぶ東海道。46番目の宿場にあたる亀山から47番目の関までは約9km(徒歩約2時間半)の行程。起伏に富んだ地形を楽しみながら往時の旅人達の苦労を偲ぶもよし、ハイテク機器の工業団地を見やりながら時代の移ろいを語るもよし、愛好家には格好のウォーキングコースとして人気が高い。

駅探訪は、JR東海の社内誌「おれんじ」9月号から抜粋し再構成したものです。

国鉄清算事業本部からの大切なお知らせです

元国鉄職員及びご遺族の皆様へ

石綿(アスベスト)補償制度のお知らせ

石綿(アスベスト)による疾病については、元国鉄職員の方の中からその発症事例が出現しております。

このような業務に従事していた方
工場・機関区・電車区・気動車区・客貨車区・自動車営業所・船舶関連職場等における機関車、鉄道車両、自動車、船舶を検査、点検、修理又は解体する業務等

こんな症状のある方
石綿による中皮腫
石綿による肺がん
石綿肺
びまん性胸膜肥厚
良性石綿胸水

このような補償制度・健康診断があります

- ・旧国鉄時代に右記業務に従事し、右記症状のある方又はそのご遺族の方に対する各種補償
- ・旧国鉄時代に右記業務に従事した方に対する石綿に関する健康診断

補償請求権が時効で消滅していても、また、救済されます。

ご遺族に対する

特別給付金の請求期限は

平成21年3月26日まで

※特別給付金とは特別殉職年金及び特別遺族一時金を言います。
健康診断は引き続き実施いたします。

詳しくは

ホームページ

www.jnsh.jtt.go.jp または

電話 〇三ー三五〇六ー三三三七まで

受付時間 月～金の九時～十二時、十三時～十七時 (祝日を除く)

対象者の経歴等により、事業本部から別の窓口を紹介させていただきます。

独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 国鉄清算事業本部 管理部 職員課
〒一〇五一八四三四 東京都港区西新橋二丁目八番六号(住友不動産日比谷ビル八階)
shokun@jnsh.jtt.go.jp

編集後記

会報第十二号(十月号)の編集と今後をお願い
本年度の本部総会と各地方本部総会及び各支部総会は七月中旬までに終了しました。四月及び五月に開催した静岡地方本部総会と本部総会の経過は七月号で掲載し、六月及び七月に開催された名古屋、東海東京及び東海大阪の地方本部総会の経過と一部の支部総会の開催状況を掲載しました。

一 平成十九年度本部及び地方本部役員一覧表
平成十九年度に本部及び地方本部役員の一部に異動があったので一覽表を二頁に掲載。
二 暮らしと年金
ご自身の年金給付記録を確かめるポイントを掲載。
三 千種名東支部と鶴舞支部との合併
千種名東支部総会で、隣接する鶴舞支部との支部合併を決議し、鶴舞支部も了解して年度内に支部名称も「名古屋東支部」に改めて発足する発表があり、その後の経過を注目して、今後の支部のあり方の参考になりたい。

四 新幹線名古屋施設支部の発足
名古屋地区の新幹線施設OBでOB会未加入者約百名が、OB会へ新規に加入し、九月二十二日に新幹線施設名古屋支部結成の設立総会を盛大に挙げることにになり、その経過を次号で発表する予定です。
五 アスベスト補償制度のお知らせ
会報への寄稿、文芸欄への投稿要領は、前回第十号(七月号)掲載と同じで省略し、「アスベスト補償制度のお知らせ」を掲載しました。

六 東海鉄道OB会報の充実
会員でつくる会員のための会報として充実するため、特に
A会報表紙の写真を積極的に寄せ下さい。
I若手会員のフレッシュな投稿を歓迎します。(杉浦)

発行 千四五〇一〇〇〇二
名古屋市中村区名駅 三丁目十三一十二
キヨスク名駅ビル内 東海鉄道OB会本部
発行人 杉浦 定行
電話 〇五二一五六二一六〇八〇(FAX兼用)